

## (半田市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 14 校、中学校 6 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		0 人
		地域学校協働活動推進員		26 人
		統括コーディネーター		0 人
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 13 校	中 5 校
		地域学校協働本部がカバーしている学校数	小 0 校	中 0 校



### (活動の実際)

#### 《さくら小学校学校運営協議会》

さくら小学校では年に3回連絡会を開催し、学校や地域の現状、課題や方策等について、有意義な情報交換を行っている。令和6年度から立ち上げた「エプロン先生」は、4月当初、1年生が登校した際に、用具の整理・整頓や提出物などの準備の見守りや必要に応じて支援する活動である。エプロン先生として地域の方々が登録・活躍されており、子供たちもエプロン先生をきっかけに、地域の方が見守ってくれている、応援してくれているという思いを大切に生活することができている。この活動は、子供たちにとっても、地域の方々にも良い影響をもたらしている。

#### 《令和7年度の取組》

さくら小学校区は、複数自治区で成り立っており、地域のつながりの希薄化について、学校運営協議会でも危惧する声があがっていた。地域、家庭、児童が、様々な行事に意欲的に参加できるよう工夫することで、つながりを強め、地域の宝である子供たちをみんなで見守り、育てていこうとする人々を増やしたいという目的から、下記2点の取組を実施した。

【スタッフジャンパーの制作】教員と地域の方々がそろいのジャンパーを着用することで、地域の方々のさくら小学校への所属意識が高まり、子供たちからも、見守ってくださる地域の方々が一目で分かるようになり、困ったときや緊急時のよりどころとして定着させることができた。

【誰一人取り残さずイベントに参加できる仕組みづくり】自治区の境目関係なく、子供だけでも安心して参加できるよう、学校を開催場所としたイベントを企画した。子供たちや携わる大人からデザインを募集してさくら小缶バッジを作成し、イベントごとに違う種類を準備し、子供たちの参加意欲が高まるよう工夫している。

### (◎成果と●課題)

- ◎地域とのつながりが強くなったことで、ボランティアの呼びかけに対して、これまで以上に多くの方に快く協力していただけるようになった。
- ◎学校と地域の関係性がよくなり、より多くの方に学校の現状を知っていただき、学校や地域の課題解決に向けて、自然な雰囲気の中で具体的な話し合いをすることができるようになった。
- コロナ禍でやむなく中止し、そのままになっている、地域の人材を活用した生活科の授業や地域の方々と交流が図れるような行事や授業に改めて取り組んでいきたい。

### (関係者の声)

- ・学校を地域とのイベントの開催場所とすることで、子供だけでも参加しやすく、多くの子供が参加することができた。イベントに参加できない児童の方が悩みを抱えていることもあるため、さくら小学校の児童全員が参加できるようにしていきたい。(自治区役員、保護者)